

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アムールカナヘビ

Takydromus amurensis Peters, 1881

竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：竹中践，2026. アムールカナヘビ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 167-171.

Citation: Takenaka, S., 2026. *Takydromus amurensis* Peters, 1881. In: Ministry of the Environment, Japan
(ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 167-171.

有鱗目 Squamata カナヘビ科 Lacertidae

アムールカナヘビ

Takydromus amurensis Peters, 1881

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		A4 D2
基準 A: VU	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: VU	基準 E: —
A4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間において 30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 【比較年】 10 年（世代時間不明） 【過去の状況】 過去の記録はないが、現在の生息地と類似のハビタットが少なくとも 11 カ所存在したことが地図情報から推定できる。 【近年の状況】 現地調査によって 9 カ所で生息が確認されている。 【今後の状況予測】 現在生息が確認されている場所の半数ほどは、道路建設等の開発による環境変化が著しく、今後生息状況が悪化すると推定される。 D2. 生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている。 【判断理由】 本種は上対馬にしか生息しておらず、本種の脅威として想定される生息阻害要因（外来種、病原体、大規模な開発や自然災害等による生息環境の改変等）の影響が、比較的速やかに全体に及ぶ可能性がある。現地調査により、現在の生息地の生息環境の悪化が継続していることも確認されている。				
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会				

概要

本種は、対馬では森林内の小河川に沿った日当たりのよいガレ場や草むらで見られる。成体は、倒木や樹木の根元、岩の下といった隠れ場所にすぐに逃げ込む。成体の頭胴長は 55～78 mm で、全長は 185～250 mm。卵生で、平均一腹卵数は 4 程度、年に 2 回産卵する。孵化した幼体は全長が約 70 mm 程度。成熟年齢は 2、3 歳。ハビタットである丘陵地の明るい流れのある場所は、交通網の整備のための道路建設や森林開発によって変化ってきていて、個体数は減少している。

基礎情報

【形態】

全長 185～250 mm、頭胴長 55～78 mm。他のカナヘビ属の種と同様、細長い体型で尾が長い。ニホンカナヘビと似て、属内ではやや太めの体型。色彩もニホンカナヘビと似て、褐色に暗褐色の斑模様や帯模様が入る。腹部後半から尾にかけての側部の帯模様は暗褐色の楔形の模様が連続する。上唇、下唇部に黒色斑紋がある。側面に白色の縦条が通る。腹面は白色ないし褐色がかった白色で最外に暗褐色の小斑が並ぶ。咽頭板は 4 対。鼠蹊孔は 3～4 対。頸環板が頭部腹面にあって胴部腹板との境をなす。腹板は 8 列、頸環板と前肛板までのあいだに 22～28 枚ぐらい、背面の鱗は 6～8 列。前肛板は大きく、1 枚。

【生活史】

春から夏に年 2 回産卵する。一腹卵数は 3～8 で、平均 4 卵ほど。孵化直後の幼体は全長 70 mm ほどで、2 歳で成熟する。他のカナヘビ類と同様に昆虫類、クモ類などの無脊椎動物を捕食する。

【生息環境】

山地から丘陵にかけて、沢沿いの明るい場所を中心に生活する。カナヘビ属としてはめずらしく、地面の隙間に逃げ込む習性がある。沢沿いなどの斜面の明るい場所で日に当たっているところを見ることが多い。樹木の根元や倒木の下、石が重なっている所の隙間に逃げ込む。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林、草地、河川上流域、河川中流域 【陸域_平地部】森林、草地、河川中流域、小河川
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域、(2) 里地里山・田園地域、(7) 島嶼地域

【分布域】

国外では、朝鮮半島から中国東北部、ロシア沿海地方南部の、山地、丘陵域に分布する。国内では対馬に分布する。対馬の分布記録は上対馬のみ。

現在の生息状況

【分布域の現況】

対馬において分布が初確認された 1966 年以降、国内における本種の分布地点の報告は対馬の上対馬のみである。既知の分布地点の中には、道路建設等の開発の影響で、消滅または生息環境が悪化し個体数が減少したと考えられる事例が生じているが、分布地点は上対馬に散在していることから、分布域自体は縮小していない。

【生息地の現況】

本種のハビタットは、斜面の樹木の根元や岩などのすきまがある場所で、森林の沢沿いに散在することが多い。谷あいには道路建設が行われると、本種のハビタットとなっている場所をかく乱することがあり、生息地の減少や改変をとまなうことがある。とくに西岸地域と東岸地域を結ぶ交通網の整備では、丘陵の河川沿いに道路が建設されることが多いこ

とから、本種の生息地が影響を受けてきた。近年においても、それは続いていて、整備された交通網からの開発の広がりもみられる。

【個体数の現況】

生息する個体は、隠れ入る地面のすきまを中心として行動し、散在して生息していることから、個体数密度の推定はむずかしい。個体が確認できる地点は減少してきている。

存続を脅かす要因

針葉樹の植林や森林伐採による生息環境（沢周辺の斜面地）の消失が進行しているほか、丘陵の谷の開口部の舗装道路建設や土地造成、宅地化などが急速に進み、好適な生息環境が失われてきている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，草地開発，土地造成，交通インフラ建設
	（現在）	森林伐採，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，分布・産地局限

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第4次 2019:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第4次 2018:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第4次 2017:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第4次 2015:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第4次:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第3次:	アムールカナヘビ	<i>Takydromus amurens</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

指定なし

参考文献

- 日本爬虫両棲類学会（編），2021. 新日本両生爬虫類図鑑，サンライズ出版，彦根. 232pp.
- 関慎太郎，2018. 野外観察のための日本産爬虫類図鑑 第2版. 緑書房，東京. 212pp.
- 柴田保彦，1966. 対馬のアムールカナヘビ（予報）. 大阪市立自然史博物館研究報告，19: 13-17.
- 竹中践，1987. 対馬産アムールカナヘビとツシマスベトカゲについて. 対馬の自然 対馬自然資源調査報告書，pp. 161-173，長崎県，長崎.
- Takenaka, S., 1989. Reproductive ecology of Japanese lacertid lizards. In: M. Matsui, T. Hikida and R. Goris (eds), Current Herpetology in East Asia, pp. 364-369. Herpetological Soc. Japan, Kyoto.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Takydromus amurensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Takydromus amurensis* is listed as VU under criteria A4 D2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

4. An observed, estimated, inferred, projected or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over any 10 year or three generation period, whichever is longer (up to a maximum of 100 years in the future), where the time period must include both the past and the future, and where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

D2. Population with a very restricted area of occupancy (typically less than 20 km²) or number of locations (typically five or fewer) such that it is prone to the effects of human activities or stochastic events within a very short time period in an uncertain future, and is thus capable of becoming Critically Endangered or even Extinct in a very short time period.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland, Upper river basin, Middle river basin 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Grassland, Middle river basin, Small river
Threat types:	Logging and wood harvesting, Grassland development, Land development, Transportation infrastructure construction, Limited distribution
Law designation status for conservation	—



©竹中踐（東海大学）



©竹中踐（東海大学）

執筆者:	竹中踐（東海大学）
Author:	Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月